

「村張り定置網」で地域振興 資源管理の意識も醸成



漁場の全景—漁具の積み込み作業

「村張り定置網」による漁村コミュニティの振興を目的としたJICAの草の根技術協力事業「草の根・パートナー型」が、東京海洋大学、アイシーネットの共同プロジェクト事業として、インドネシアのボネ県・パレテ村でスタートして1年が経過した。今年3月の操業開始後、最近は一か月平均約100キの漁獲と安定してきた。2009年度までの3か年事業のこの事業、これまでの経過を2回にわたり中間報告する。



いよいよ定置網を敷設

定置網漁業は岸のすぐ待つて獲る資源にやさしく、近くで操業するために漁い漁業であること、鮮度、燃料料費がかからないこと、のよい漁獲物が水揚げでき、毎朝1時間程度の網起しで労働が過酷でないこと、魚を追いかけるのではなく、

技術移転に取り組んで①

東京海洋大学・アイシーネットプロジェクトチーム

インドネシアへの定置網

技術移転事業が07年からの3か年計画でスタート。事業の目的は、同村の漁場の利用管理と伝統的沿岸漁業のツールとして、村張り定置網を定着させる、持続的な漁業技術、水産物加工・流通、漁家経営の改善を図り、地域ぐるみの振興を目指すというものであった。

それに先立ち、有元貴文東京海洋大学海洋科学部教授グループは1年間をかけ、現地で電磁式流向流速計と水深水温計を漁場候補地に設置し、本格的な漁場環境の事前調

ループは、タイ国で氷見市が実施したJICAの草の根技術協力を通じ、沿岸小規模漁業者がグループを結成して操業することの大切さが認識され、前浜の漁業資源を管理しようという漁業者の意識を生み出していることに着目。この「草の根・パートナー型」によるインドネシアへの「村張り定置網」の技術移転を申請。その結果、07年8月から10年8月までの期間で実施することが採択された。(つづく―菅野)

査を実施した。また、宮崎県南郷町で定置網の技術研修を終え、帰国したインドネシア・ボネ水産高校卒業生を現地スタッフとして確保するための準備を進めた。一方で同グ

大分県大分市... (vertical text on the right margin)

